

つわのまさこ市政レポート

2024.7 vol.4

発行：さいたま市議会議員 津和野眞佐子

さいたま市議会議員の津和野眞佐子です。

先に開催されました6月定例会(6月5日開会～6月28日閉会、24日間)で、私は市議会議員として2度目の一般質問に立ち、未着手となっている東浦和地区の区画整理事業の問題など、5項目12件について質問・提言をいたしました。さらに総合政策委員会にて議案外質問をしました。

7月31日からは政令指定都市として全国初！ デジタル地域通貨「さいコイン」の運用が始まります。さいたま市の新たな挑戦です。市民の皆さまと一緒に盛り上げ、見とどけていきたいと思えます。

市政に関する皆さまのご意見やご感想などをお寄せください。

さいたま市議会議員 津和野眞佐子



▲6月定例会では一般質問に立ち、市の施策に対し5項目11件について質問及び提言を行いました。

〈一般質問／6月11日〉

地域や市民の「声」を反映させた事業展開について

(1) 東浦和長期未着手地区及びその周辺について

① これまでの取り組み及び現状における見解について

Q

南区と緑区の2区にまたがる東浦和地区は、東浦和土地区画整理事業として、昭和42年9月に都市計画決定が行われたものの、現在まで事業化に至っていません。過去には、当該地区の住民の皆様から市に要望書が提出されたことにより、公共下水道の整備は進みましたが、なぜ土地区画整理事業が進んでいないのか疑問を感じます。東浦和地区、および周辺地区について、これまでの経緯と見解を聞かせください。

A

都市局長 これまで東浦和第三地区に対して、平成12年から説明会や勉強会などの啓発活動に取り組んできました。しかし平成15年に関係権利者の皆様から、賛同できない旨の要望書が提出され、事業化に至っていません。市としては、今後は土地区画整理事業によらない、地域の特性に応じたまちづくりを進める必要があると認識しています。地区の特性に応じたまちづくりに向け、地元との意見交換を進めてまいります。

② 今後の具体的な取り組みについて

Q

近年、市民ニーズや地域が抱える課題が多様化・複雑化しています。そのため、地域の意見をしっかりと把握しながら、交通課題を含め、地域特性に応じたまちづくりを進めるべきだと思います。今後の具体的な取り組みについて伺います。

A

都市局長 関係自治会との意見交換を7月から9月までに実施したいと考えます。議員ご指摘のとおり、地域ごとによってニーズが異なることは理解しています。今後のまちづくりを進めるに当たって、地域課題や住民ニーズなどを幅広く把握してまいります。また、専門家派遣制度なども活用しながら、取り組みを丁寧に進めたいと考えます。

過去10年の市民意識調査より抽出
【施策や事業の満足度の「不満」上位3項目】—南区—

	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
不満足度 1位	市街地整備	市街地整備	道路・輸送	道路・輸送	市街地整備
不満足度 2位	道路・輸送	道路・輸送	市街地整備	市街地整備	道路・輸送
不満足度 3位	バリアフリー	バリアフリー	公園	バリアフリー	公園

	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
不満足度 1位	道路・輸送	市街地整備	公共交通・道路	公共交通・道路	公共交通・道路
不満足度 2位	市街地整備	道路・輸送	地域医療	緑化・公園	緑化・公園
不満足度 3位	事故・防犯	公園	緑化・公園	観光	広域交通

参考資料：『さいたま市民意識調査報告書』さいたま市長公室秘書広報部広報課(平成26年度～令和5年度)より

■56年動かなかったところがやっと動き出すことになります。今後の進捗状況をしっかり見守ってまいります。

(2) 産業道路の南区エリアの整備状況について

Q

先日、私の元に「産業道路の、特に谷田小学校から二十三夜交差点の間の側溝がひどく、高齢者は安心して歩けません」と相談があり、早速調査をしました。

側溝蓋の脱落による段差ができていたり、グレーチングと蓋の段差がありました。このような段差は、車いすやシルバーカーは滑らかな歩行ができません。また、アスファルトによるすりつけ補修が繰り返されている側溝(写真)がありました。この段差は10cmほど。アスファルトを盛り付ける簡易的な修復が繰り返されていますが、根本的な段差の解消には至っていません。



アスファルトによる補修

しっかり計画をたてて、がたつきや段差の解消等を検討できないか、また現状での安全対策をどのようにとっていくのか、見解を伺います。

A

建設局長 議員ご指摘の通り、がたつきや段差が生じていた箇所は部分的に補修を実施したところです。

今後については、現地調査を行いながら歩行者が安全・安心に通行できるように、計画的に蓋の交換や段差の解消などを、年次計画を立てて実施していきたいと考えます。

■この区間には2つ小学校があり通学路にもなっています。すべての市民が安心して歩けるよう、しっかり修復されるよう見届けてまいります。

さいたま市の文化財について

Q

貴重な文化財を未来に残すためには、持続可能な方法で文化財の保存と修復を行うことが重要です。現在、市が把握している「個人所有の市指定文化財の数」と「修復要望数」と「その修復にかかる合計金額」を教えてください。

A

教育長 市指定の文化財所有者が行う文化財の保存・活用への補助事業として、修繕費の2分の1を補助しています。市指定文化財のうち個人所有の文化財は、約300件あり、そのうち高額で時間を要する修繕を希望しているものが現時点で5件、うち見積もりが取れている文化財は2件で、修繕に要する総額は合計約5千万円となります。

Q

大切な文化財を保存し、修復するためには、十分な予算の確保が不可欠です。公的助成金の活用やふるさと納税、クラウドファンディングなど、ありとあらゆる手段を活用し、予算の確保をしていただきたいと思います。見解を伺います。

A

教育長 令和4年度より、「田島が原サクラソウ自生地」を再生するためのクラウドファンディングを実施しており、人々の願いや思いを形にする大変有効な方法と考えています。今後、文化財保護のための資金調達方法の一つとして、クラウドファンディング活用の検討を進めます。また、本市の重要な文化財を未来に残すため、国の補助金を積極的に活用するなど、予算の確保に努めてまいります。

■「さいたま市の宝」である文化財の保存、活用、継承に向けて、これからも頑張りたいと思います。

〈議案外質問／総合政策委員会／6月17日〉

防災出前講座について

Q

昨年、南区の防災フェアで、床上浸水の体験ができるVRに参加しました。ゴーグルをつけると没入感があり、床上50cm、本当に水が上っている体験ができ、VRは教育やトレーニングに強力なツールになるなど実感しました。

現在、防災課の出前講座は大体35人から50人程度の出席者に映像を見せて、その後に職員の皆さんが施策について説明されます。これに加えてVR体験を常設化するのはいかがでしょうか？

A

危機管理防災部長 災害を疑似体験できるバーチャルリアリティは、災害の危険性や切迫性を理解し、迅速な防災行動をとるために効果的であると認識しています。今年度の九都県市合同総合防災訓練では、防災体験ブースとしてVRを活用した内容も企画しているところです。引き続き、VRをはじめ多様な手法での防災啓発に努めてまいります。



■特に要支援者の方々に対して、避難訓練への参加が難しくても、出前講座におけるVR体験は効果があるものではないかと考えます。VR体験の常設化の実現を願っています。

デジタル地域通貨「さいコイン」スタート!!

7月31日から、市内の店舗などで使えるデジタル地域通貨「さいコイン」の運用が始まります。市民サービスが受けられるスマートフォンアプリ「さいたま市みんなのアプリ」を通じて提供されます。

自治体による積極的な経済施策として、地域経済の活性化につながることを期待しています。



「さいコイン」の詳細については、市のホームページをご覧ください。➡



※「さいコイン」は、本市をはじめさいたま商工会議所などの経済団体、地元企業などが出資し5月に設立された地域商社の「つなぐ」(さいたま市浦和区)が運営を担います。

さいたま市政に関する皆さまのご意見・ご要望をお寄せください。

さいたま市議会議員 **津和野 眞佐子**

さいたま市南区広ヶ谷戸233-4
パープルマンション1階C号室

Email : m.tsuwano@gmail.com

TEL : 090-8050-1182

https://m-tsuwano.com

https://www.instagram.com/m.tsuwano



▲ホームページ



▲Instagram